

平成20年3月21日
文 化 庁

国宝・重要文化財（美術工芸品）の新指定及び
登録有形文化財（美術工芸品）の登録について

文化審議会（会長 石澤良昭）は、平成20年3月21日（金）に開催される同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに32件の美術工芸品を国宝または重要文化財に指定すること、また、3件の美術工芸品を登録有形文化財として登録原簿に登録することを文部科学大臣に答申しました。

なお、今回、答申された物件の詳細については別紙のとおりです。

この結果、近日中に行われる官報告示を経て、国宝・重要文化財（美術工芸品）は、10,311件（国宝を含む。）、登録有形文化財（美術工芸品）は9件となる予定です。

国宝・重要文化財（美術工芸品）件数一覧

種別	新指定件数		合計
	国宝	重要文化財	
絵画		4	1,956 (157)
彫刻		8	2,628 (126)
工芸品		5	2,415 (252)
書跡・典籍		5	1,865 (223)
古文書		4	726 (59)
考古資料	1	3	567 (43)
歴史資料		2	154 (2)
合計	1	31	10,311 (862)

(注) 合計欄括弧内の数字は国宝の件数で、内数である。

登録有形文化財（美術工芸品）件数一覧

種別	新登録件数	合計
絵画		0
彫刻		0
工芸品	1	2
書跡・典籍		1
古文書		0
考古資料	1	2
歴史資料	1	4
合計	3	9

(問い合わせ先)

文化庁文化財部美術学芸課 電話 (代表03-5253-4111)
(直通03-6734-2887)

課長 山崎 (内線2884)

主任調査官(絵画の部) 鬼原 (内線2890)

主任調査官(彫刻の部) 岩佐 (内線2891)

主任調査官(工芸品の部) 齊藤 (内線2889)

主任調査官(書跡・典籍、古文書の部) 池田(寿) (内線2888)

主任調査官(考古資料の部) 土肥 (内線2892)

主任調査官(歴史資料の部) 池田(宏) (内線2893)

目 次

1. 国宝（美術工芸品）

<考古資料の部>

（重要文化財を国宝に 1 件）

- ① しまねけんかもいわくらいせきしゅつどどうたく 島根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸 三十九口 1
【所有者】国（文化庁保管）

2. 重要文化財（美術工芸品）

<絵画の部>

（重要美術品を重要文化財に 3 件）

- ① しほんちやくしよくあずさゆみず いわさかつもちひつ 紙本著色梓弓図 岩佐勝以筆 一幅 2
【所有者】国（文化庁保管）

- ② しほんちやくしよくぬのざらしまいず はなぶさいっちょうひつ 紙本著色布晒舞図 英一蝶筆 一幅 2
【所有者】財団法人遠山記念館

- ③ しほんぼくがたんさいかんじょかんぎくず いわさかつもちひつ 紙本墨画淡彩官女観菊図 岩佐勝以筆 一幅 3
【所有者】財団法人山種美術館

（未指定文化財を重要文化財に 1 件）

- ① けんぼんちやくしよくしゃかりょうじゆせんせつぼうず 絹本著色釈迦霊鷲山説法図 一幅 3
【所有者】独立行政法人国立文化財機構（奈良国立博物館保管）

<彫刻の部>

（未指定文化財を重要文化財に 8 件）

- ① どうぞうによらいりゅうぞう 銅造如来立像 一軀 4
【所有者】宗教法人湯殿山総本寺大綱大日坊

- ② もくぞうりょうかいざぞう 木造了海坐像 一軀 4
【所有者】宗教法人善福寺

- ③ 木造大威徳明王像うんけい 運慶作 一軀 5
 { 像内納入品
ぞうないのうにゆうひん
 【所有者】 宗教法人光明院
- ④ 木造阿弥陀如来立像 一軀 5
もくぞうあみだによらいりゅうぞう
 【所有者】 宗教法人専修寺
- ⑤ 木造諸尊仏龕 一基 5
もくぞうしよぞんぶつがん
 【所有者】 宗教法人寂照寺
- ⑥ 木造釈迦如来及迦葉阿難立像 三軀 6
もくぞうしゃかによらいおよびかしょうあなんりゅうぞう
 【所有者】 宗教法人東福寺
- ⑦ 木造不動明王立像 一軀 6
もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう
 【所有者】 宗教法人三千院
- ⑧ 木造観音菩薩立像 一軀 6
もくぞうかんのんぼさつりゅうぞう
 【所有者】 宗教法人明王寺

<工芸品の部>

(未指定文化財を重要文化財に 5件)

- ① 蔦細道蒔絵文台硯箱 一具 7
つたのほそみちまきえぶんだいすずりばこ
 【所有者】 独立行政法人国立文化財機構 (東京国立博物館保管)
- ② 絵唐津芦文壺 一口 7
えがらつあしもんつぼ
 【所有者】 財団法人出光美術館
- ③ 金銅蓮華唐草文透彫華鬘 三面 8
こんどうれんげからくさもんすかしぼりけまん
 【所有者】 宗教法人金剛輪寺
- ④ 鏤絵水仙文茶碗 仁清作 一口 8
さびえすいせんもんちゃわん にんせいさく
 【所有者】 宗教法人天寧寺
- ⑤ 明官服類 (文禄五年豊臣秀吉受贈) 9
みんかんぶくろい (ぶんろくごねんとよとみひでよしじゅぞう)
 【所有者】 宗教法人妙法院

<書跡・典籍の部>

(未指定文化財を重要文化財に 5件)

- ① ^{くじょうどのぎよしゅう}九条殿御集 一帖 10
【所有者】 国 (文化庁保管)
- ② ^{せんじゅじしゅうぎょう}専修寺聖教 八十二点 10
【所有者】 宗教法人専修寺
- ③ ^{としよりずいのう}俊頼髓脳 一帖 10
【所有者】 財団法人冷泉家時雨亭文庫
- ④ ^{こうていないけいたいそ}黄帝内経太素 卷第二十一、第二十七 二卷 11
【所有者】 財団法人武田科学振興財団
- ⑤ ^{びょうどういんきょうぞうもくろく}平等院経蔵目録 一帖 11
【所有者】 財団法人阪本龍門文庫

<古文書の部>

(未指定文化財を重要文化財に 4件)

- ① ^{ひしじまけもんじょ}比志島家文書 (二百十六通) 七卷 12
【所有者】 国立大学法人東京大学
- ② ^{せんじゅじもんじょ}専修寺文書 (三百六通) 十一卷、一幅、七帖、二百八十四通 12
【所有者】 宗教法人専修寺
- ③ ^{ひょうごきたせきいりふねのうちょう}兵庫北関入船納帳 一帖 12
【所有者】 京都府京都市
- ④ ^{ごほうじょうじかんぱくき}後法成寺関白記 二十一冊 13
【所有者】 財団法人陽明文庫

<考古資料の部>

(未指定文化財を重要文化財に 3件)

- ① ^{ほっかいどうかみのくにかつやまだてあとしゅつどひん}北海道上之国勝山館跡出土品 13
【所有者】 北海道檜山郡上ノ国町
- ② ^{いしかわけんあめのみやいちごうふんしゅつどひん}石川県雨の宮一号墳出土品 14
【所有者】 石川県鹿島郡中能登町

- ながさきけんそうろくこふんしゅつどひん
③長崎県双六古墳出土品 14
【所有者】 長崎県壱岐市

<歴史資料の部>

(未指定文化財を重要文化財に 2件)

- つしまそうけかんけいしりょう
①対馬宗家関係資料 15
【所有者】 学校法人慶應義塾
- まつうらたけしろうかんけいしりょう
②松浦武四郎関係資料 15
【所有者】 三重県松阪市

3. 登録有形文化財（美術工芸品）

<工芸品の部>

(未指定文化財を登録有形文化財に 1件)

- なみかわやすゆきしつぼうしりょう
①並河靖之七宝資料 千六百六十二点 16
【所有者】 財団法人並河靖之有線七宝記念財団

<考古資料の部>

(未指定文化財を登録有形文化財に 1件)

- えつちゅうちいきこうこしりょう はやかわしやうさくしゅうしゅうひん
①越中地域考古資料（早川荘作 蒐集品） 千六百九十九点 16
【所有者】 富山県

<歴史資料の部>

(未指定文化財を登録有形文化財に 1件)

- くどうりさぶろうさつえいしやん がら すげんばん
①工藤利三郎撮影写真ガラス原板 千二十五点 17
【所有者】 奈良県奈良市

1. 国宝（美術工芸品）

<考古資料の部>

（重要文化財を国宝に 1 件）

①^{しまねけんかもしわくらいせきしゆつどうたく}島根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸 三十九口

【大きさ】三十五号鐸 全高 47.4 cm ほか

【所有者】国（文化庁保管）

平成 8 年に農道整備中に発見され、これまで知られている中で最多となる 39 口の銅鐸が出土した。中型銅鐸の中に小型銅鐸を入れ子で埋納している状態が調査で確認された初めての例であり、複数埋納の具体的状況が調査された希有な事例である。

39 口の中には同じ鋳型で造られた同範銅鐸が多数ある。各地に同範品が分布していることも明らかとなり、銅鐸の製作・移動を考える上で重要な知見をもたらした。また、絵画が表された銅鐸には畿内の銅鐸と異なる図様をもつものが含まれている。

出雲の地で発見された本銅鐸群は、弥生時代の社会を知るうえで欠くことのできない重要な資料である。

（弥生時代）

2. 重要文化財（美術工芸品）

<絵画の部>

（重要美術品を重要文化財に 3件）

① しほんちやくしよくあずさゆみず いわさかつもちひつ紙本著色梓弓図 岩佐勝以筆 一幅

【大きさ】縦130.8cm 横54.2cm

【所有者】国（文化庁保管）

岩佐又兵衛勝以（1578～1650）は近世初期に風俗画を中心に独創的な画風を展開した画家。本図は、又兵衛後半生の代表作で福井の豪商金屋家に伝わった金谷屏風の1図であった。同屏風は和漢の故事人物図12図を自由に隣り合わせた押絵貼形式の優品であったが、明治時代末頃に解装され分散した。

本図は、長い不在から突然帰宅した夫と、夫との約束の年月が過ぎて別の男の求愛を受け入れた妻の心の葛藤を描く伊勢物語の第24段を主題とする。門をたたき、耳を澄ます夫の姿には、又兵衛独特の人物表現の特色が色濃くあらわれており、しかも繊細な線描、淡彩による繊細な描写が優れている。

（江戸時代）

② しほんちやくしよくぬのざらしまいず はなぶさいっちょうひつ紙本著色布晒舞図 英一蝶筆 一幅

【大きさ】縦29.7cm 横55.2cm

【所有者】財団法人遠山記念館（埼玉県比企郡川島町大字白井沼675）

英一蝶（1652～1724）は市井のありふれた庶民の都会風俗、健全明朗な生活を生き生きと描き出し、都会的洗練と詩情を湛えた絵画表現へと高めた点で近世絵画史上に重要な画家。本作品は額まで覆う頭巾をかぶった舞手が、布を晒す仕草や波の様を布を用いて表したさらしの舞を披露する様子を描く。小画面に一蝶の人物表現の優れた特質を凝縮した作品であり、元禄期におけるさらし舞の貴重な絵画資料でもある。画面左上に藤牛麻呂の款記がある。

（江戸時代）

③ しほんぼくがたんさいかんじょかんぎくず いわさかつもちひつ紙本墨画淡彩官女観菊図 岩佐勝以筆 一幅

【大きさ】縦131.3cm 横55.6cm

【所有者】財団法人山種美術館（東京都千代田区三番町2）

岩佐又兵衛勝以（1578～1650）は近世初期に風俗画を中心に独創的な画風を展開した画家。本図は、又兵衛後半生の代表作で福井の豪商金屋家に伝わった金谷屏風の1図であった。同屏風は和漢の故事人物図12図を自由に隣り合わせた押絵貼形式の優品であったが、明治時代末頃に解装され分散した。

本図は12図中で最も評価の高い1図であり、牛車の御簾を侍女に上げさせて、菊の花を愛でる2人の公家女性を描く。伝統的な大和絵の絵画技法である白描を、自らの特徴的な画風のなかに高度に融合し、しかも大形の画面に緊密に構成している。

（江戸時代）

（未指定文化財を重要文化財に 1件）

① けんぼんちゃくしよくしゃかりょうじゆせんせっぽうず絹本著色釈迦霊鷲山説法図 一幅

【大きさ】縦159.8cm 横79.8cm

【所有者】独立行政法人国立文化財機構（奈良国立博物館保管）

霊鷲山における釈迦の説法のさまを1図にあらわす。釈迦、18体の菩薩とともに十大弟子、四天王、八部衆等を緻密な線描と華麗な彩色で描き出している。説法の場の前後方にあらわされた山水も青緑系の爽やかな色彩を用いて秀逸であり、鎌倉時代の仏教説話画として貴重である。

（鎌倉時代）

<彫刻の部>

(未指定文化財を重要文化財に 8件)

どうぞうによらいりゅうぞう
①銅造如来立像 一軀

【大きさ】像高28.3cm

【所有者】宗教法人湯殿山総本寺大網大日坊（山形県鶴岡市大網字入道11）

出羽三山の一つ湯殿山の麓に所在する大日坊に伝来した金銅仏。左右対称形を基調とする衣文の形や手足を大きく表して直立する姿など飛鳥時代の仏像と共通する形式を示すが、柔和な表情や起伏のある衣の表現には中国・南北朝時代の梁、さらには朝鮮・三国時代の百済の仏像との関連がうかがえる。飛鳥時代の仏像様式の多様性、外来様式の伝播の様相を考えていく上で重要である。

(飛鳥時代)

もくぞうりょうかいざぞう
②木造了海坐像 一軀

【大きさ】像高77.3cm

【所有者】宗教法人善福寺（東京都港区元麻布1-6-21）

善福寺の開山で、親鸞に帰依し、親鸞門下の一つ武蔵国の荒木門徒から派生した阿佐布門徒の指導者として活躍した了海上人の像。面相の肉付けや衣の表現も自然で、優れた作風を示す。徳治元年（1306）とも元応2年（1320）とも伝えられる了海没後の造立と考えられるが、活力に満ちた壮年期の了海の姿を理想化して捉えた感がある。真宗僧侶の肖像彫刻の優品として注目される。

(鎌倉時代)

- ③ もくぞうだいいとくみょうおうぞう 木造大威徳明王像 うんけい 運慶作 一軀
- ぞうないのうにゆうひん 像内納入品
- 一、れんじつせいしやりようき 蓮実製舍利容器 一口
- 一、だいいとくしゅじ 大威徳種子・ほんじさんじんしんごん 梵字三身真言・ほんじあいぜんしんごん 梵字愛染真言・ほんじせんじゅだらに 梵字千手陀羅尼 一卷
- 建保四年十一月、源氏大貳殿、
法印運慶の奥書がある

【大きさ】大威徳明王像 像高19.8cm

像内納入品 蓮実製舍利容器 縦1.7cm

大威徳種子等及梵字千手陀羅尼 縦8.1cm 現状全長116.7cm

【所有者】宗教法人光明院（神奈川県横浜市金沢区金沢町215）

近年の解体修理時に像内から取り出された納入品の奥書から、建保4年（1216）に運慶によって造立されたことが明らかとなった作例。当初の彩色や切金もよく残り、数少ない運慶の真作として、さらに運慶最晩年の作として極めて重要である。納入文書は運慶と鎌倉幕府との緊密な関係を裏付けるなど歴史的に見ても貴重である。

（鎌倉時代）

- ④ もくぞうあみだによらいりゅうぞう 木造阿弥陀如来立像 一軀

【大きさ】像高80.5cm

【所有者】宗教法人専修寺（三重県津市一身田町2819）

真宗高田派の本山専修寺如来堂の本尊。衣全体に繊細な切金文様が施された美作で、快慶の作風を濃厚に伝える。足裏に仏足文を表し、手足の指の爪や蓮華座の蕊に金属を用い、本体を銅柱で台座に固定するなど特色ある造法を示す。類似する阿弥陀像は13世紀から14世紀にかけてしばしば造立されたが、本像はその典型作として位置付けられる。光背、台座には一部後補が認められるが、保存状態は極めて良好である。

（鎌倉時代）

- ⑤ もくぞうしよそんぶつがん 木造諸尊仏龕 一基

【大きさ】総高18.7cm

【所有者】宗教法人寂照寺（三重県伊勢市中之町101）

緻密な材に厨子とともに諸尊を細やかに彫出した龕像で、近年発見された。中国・唐時代の作例と考えられるが、諸尊の姿に中央アジアの仏像と共通する要素が多く、類例の少ない作例として注目される。仏龕背面に寛文（1661～1673）の年号をもつ朱書銘があり、本像はその頃弘法大師作と伝えられ、高野山と関係するものであったことが知られる。

（中国・唐時代）

⑥ もくぞうしゃかによらいおよびかしょうあなんりゅうぞう 木造釈迦如来及迦葉阿難立像 三軀

【大きさ】 釈迦如来 像高264.9cm 迦葉 像高189.0cm 阿難 像高193.8cm
【所有者】 宗教法人東福寺（京都府京都市東山区本町15-778）

東福寺仏殿に本尊として安置される。釈迦如来像は2メートル60センチを越える大作で、迦葉・阿難像とともに中国・宋時代の仏像様式の影響が顕著である。もとは当寺に隣接していた三聖寺に伝来した可能性が高い。日本における宋風彫刻の展開や禅宗寺院における造像を考えていく上でも重要である。

（鎌倉時代）

⑦ もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう 木造不動明王立像 一軀

【大きさ】 像高98.8cm
【所有者】 宗教法人三千院（京都府京都市左京区大原来迎院町540）

三千院に秘仏として伝来した像で、かつては極楽院（現往生極楽院）に安置されていたことが知られる。智証大師円珍が感得した黄不動を彫像化した例として貴重である。切金をまじえた当初の彩色が残り、平安時代後期の正統的な作風を踏襲するが、両足下の台座の一部まで本体と共木で彫出するなど古風な技法を用いる点にも特色がある。承安4年（1174）に極楽院で出家して円智と号した平親範（1137～1220）の黄不動信仰に関連する像の可能性が高い。

（平安時代）

⑧ もくぞうかんのんぼさつりゅうぞう 木造観音菩薩立像 一軀

【大きさ】 像高165.8cm
【所有者】 宗教法人明王寺（岡山県岡山市竹原185）

9世紀に遡る一木彫像で、肉身部にはたっぷりとした量感があり、衣文や装身具を細やかに彫出するなど、堂々とした優れた作風を示す。後世に改変されているが、当初は両足下の台座の一部まで本体と共木で造り出されていたと考えられ、一木造に対する強い意識が感じられる。明王寺は奈良時代の奈良の僧報恩大師（～795）草創の備前四十八ヶ寺の1つで、本像は平安時代前期における奈良と地方造像との関係を考える上でも重要である。

（平安時代）

<工芸品の部>

(未指定文化財を重要文化財に 5件)

つたのほそみちまきえぶんだいすずりばこ
① 蔦細道蒔絵文台硯箱 一具

文台裏及び硯箱見込に、角田河、田付長兵衛高忠（花押）の金金貝銘がある

【大きさ】(硯箱) 縦25.2cm 横22.7cm 高5.2cm 天板厚1.0cm
(文台) 幅59.1cm 奥行34.8cm 高10.0cm

【所有者】 独立行政法人国立文化財機構（東京国立博物館保管）

江戸時代前期に京都で活躍した蒔絵師・田付長兵衛高忠（生没年不詳）の銘を有する伝統的な形式をよく示す作品である。総体を黒漆塗りとし、平目地に金の薄肉高蒔絵や金銀の切金などの技法を用いる。文台・硯箱ともに『伊勢物語』第9段「宇津の山」を意匠化して、山に楓と蔦、封じ文を括った笈などをモチーフとする蔦細道の場面を、硯箱の身の見込には流水と都鳥により角田河（隅田川）の場面を表している。なお、これらの意匠にはその持ち物から主要な人物の存在を暗示する「留守文様」と呼ばれる手法が用いられている。

(江戸時代)

えがらつあしもんつぼ
② 絵唐津芦文壺 一口

【大きさ】 高16.4cm 口径16.6cm 胴径22.8cm 高台径10.7cm

【所有者】 財団法人出光美術館（東京都千代田区丸の内3-1-1）

桃山時代には西日本最大の陶器生産地である佐賀県に所在する唐津窯の作品である。唐津窯は九州諸窯の中では最も早く1580年頃には既に開窯していたと推測され、桃山時代には志野・織部などを創出した美濃窯とともに茶陶の名品を数多く生産している。本作品は鉄絵（鉄絵具）で文様を描き長石釉を掛けた絵唐津の製品で、芦や草花の文様が手慣れた筆致でのびのびと軽快に描かれる。作風が優れた絵唐津を代表する優品である。

(桃山時代)

こんどうれんげからくさもんすかしぼりけまん

③金銅蓮華唐草文透彫華鬘 三面

【大きさ】縦29.2cm 横34.7cm

【所有者】宗教法人金剛輪寺（滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺）

仏堂の長押などに懸け吊して荘厳する団扇形の華鬘である。銅製鍍金で、一枚の地板から蓮華唐草文を透し彫りし、中央に半肉彫りに打ち出した総角を鉋留めしている。猪目透しの四葉形と菊花形を重ねた吊環座や下辺の鈴と房形の垂飾金具で装飾される。蓮華および蓮葉の変容する様が精緻な蹴彫りによって立体的に表現されている。鎌倉時代の華鬘の優品の一つである。

（鎌倉時代）

さびえすいせんもんちやわん にんせいさく

④銹絵水仙文茶碗 仁清作 一口

【大きさ】高8.6cm 口径12.4cm 高台径4.0cm

【所有者】宗教法人天寧寺（京都府京都市北区寺町通鞍馬口下る天寧寺門前町301）

17世紀中頃に色絵を完成させて活躍した日本を代表する陶工である野々村仁清作の茶碗である。仁清の作品は色絵の茶壺や香炉・水指などが著名であるが、同時に本作品のような色絵を用いない銹絵などの作品でも優品を多数残している。

本茶碗は仁清の茶碗によく見られる胴部を絞った優美な姿を示している。文様は水仙の意匠であるが、仁清独特の白濁釉の下に、京焼の基本的な技術の一つである白泥を置いて銹絵（鉄絵具）の濃淡で見事に描いたものである。仁清と深い関係があるとされる金森宗和（1584～1656）の菩提寺である天寧寺に伝来した。技術的にも極めて優れた仁清の茶碗を代表する優品であり、学術的にも貴重な資料である。

（江戸時代）

⑤明官服類ぶんろくごねんとよとみひでよしじゅぞう
みんかんぶくるい(文禄五年豊臣秀吉受贈)

- 一、円領 一領
- 一、貼裏 一領
- 一、皮弁服 一領
- 一、中单 一領
- 一、裳 一腰
- 一、玉鈎 二旒一对
- 一、舄 一足

(以上萬曆二十三年勅諭記載品)

- 一、麒麟服 一領
- 一、獅子服 一領
- 一、蟒服 一領
- 一、飛魚服 一領
- 一、斗牛服 一領
- 一、便服 三領
- 一、內衣 二領
- 一、裳 二腰
- 一、襪 一足
- 一、靴 一足
- 一、帯包 一枚

【大きさ】

円領	丈141.0cm	衿121.0cm	貼裏	丈136.3cm	衿122.5cm
皮弁服	丈139.5cm	衿123.0cm	中单	丈132.3cm	衿125.5cm
裳	丈90.5cm	腰幅56.0cm	玉鈎	全長71.0cm	
舄	長26.0cm	幅7.0cm			
麒麟服	丈126.4cm	衿101.0cm	獅子服	丈127.7cm	衿112.0cm
蟒服	丈50.0cm	衿113.0cm	飛魚服	丈133.6cm	衿113.2cm
斗牛服	丈130.0cm	衿114.3cm			
便服	丈129.0cm	衿104.0cm	丈129.4cm	衿112.0cm	
	丈131.0cm	衿(計測不能)			
內衣	丈127.4cm	衿111.9cm	丈129.4cm	衿111.6cm	
裳	丈91.8cm	腰幅34.7cm	丈83.9cm	腰幅(計測不能)	
襪	高62.5cm	長24.5cm	靴	長31.0cm	幅7.0cm
帯包	長149.5cm	幅14.5cm			

【所有者】 宗教法人妙法院 (京都府京都市東山区妙法院前側町447)

妙法院に伝来し豊臣秀吉受贈と伝える明官服類の一括資料である。文禄5年(1596)9月朔日、大坂城にて明国の使者より豊臣秀吉に頒賜された冠服類と、同時期に贈られたと考えられる服飾類の資料で、製作当初の仕立てをそのまま残している。残された「勅諭」(宮内庁蔵)に記載される頒賜品と一致するものを含み、極めて貴重な遺例であり、世界的にも本資料に匹敵するものは確認されていない。

(中国・明時代)

<書跡・典籍の部>

(未指定文化財を重要文化財に 5件)

くじょうどのぎよしゅう
①九条殿御集 一帖

【大きさ】縦15.0cm 横14.8cm

【所有者】国(文化庁保管)

『九条殿御集』は平安時代中期の藤原師輔(908～960)の私家集で、内容は女性との贈答歌を主とした日常の交遊歌からなる。本書は藤原定家(1162～1241)監督の下で書写された古写本で、冊子本としては現存最古写本である。表紙および料紙の一部には雲母刷の美しい唐紙が用いられている。

(鎌倉時代)

せんじゅじしやうぎやう
②専修寺聖教 八十二点

【所有者】宗教法人専修寺(三重県津市一身田町2819)

親鸞の直弟子で真宗高田派を率いた真仏(1209～1258)および顕智(1226～1310)の撰述書と鎌倉時代の古写本とが中心となる聖教のまとまりで、専修寺の伝来になる。真宗の祖師である親鸞の思想や門弟らによる教説の受容のあり方などを明らかにする上での基本文献である。

(平安時代～室町時代)

としよりずいのう
③俊頼髓脳 一帖

【大きさ】縦16.5cm 横15.9cm

【所有者】財団法人冷泉家時雨亭文庫(京都府京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町599)

源俊頼(1055～1129)が関白藤原忠実の命を受け、鳥羽天皇に嫁いだ忠実の娘泰子に献上したとされる歌学書で、内容は和歌にまつわる故実や伝承などを説話的に記している。本書は藤原定家(1162～1241)の監督下に書写されたもので、現存最古写本である。巻頭と奥書とは定家の筆になる。

(鎌倉時代)

④^{こうていないけいたいそ}黄帝内経太素 卷第二十一、第二十七 二卷
仁安三年丹波頼基書写奥書

【大きさ】(卷第二十一) 縦28.0cm 横750.0cm
(卷第二十七) 縦28.0cm 横980.0cm

【所有者】 財団法人武田科学振興財団 (大阪府大阪市淀川区十三本町2-17-85)

『黄帝内経太素』は、中国の最古の医書である『黄帝内経』の注釈書で30巻からなる。注釈は隋の大業年間(605～617)に楊上善が行った。本書は仁安3年(1168)丹波頼基の書写になる最古写本で、医家として著名な丹波家に伝来したものである。日本における医学研究のあり方を伝えるのみならず、東洋医学史上にも貴重な史料である。

(平安時代)

⑤^{びやうどういんきやうぞうもくろく}平等院経蔵目録 一帖

【大きさ】 縦17.6cm 横15.5cm

【所有者】 財団法人阪本龍門文庫 (奈良県吉野郡吉野町大字上市151)

藤原頼通(992～1074)が、宇治の平等院経蔵に収めた宝物の目録である。宝物には空海将来と伝える愛染明王像などの仏像をはじめ、入唐・入宋僧がわが国に伝えた仏画・経典や法具・香薬などがみえる。本書は現存唯一の伝本であり、平安時代の文化史研究上に価値が高いものである。

(平安時代)

<古文書の部>

(未指定文化財を重要文化財に 4件)

①^{ひしじまけもんじょ}比志島家文書 (二百十六通) 七巻

【所有者】 国立大学法人東京大学 (東京都文京区本郷7-3-1)

比志島氏は、鎌倉時代の薩摩国御家人で、南北朝・室町時代には守護島津氏に従って成長し、江戸時代には薩摩藩の家老職などを勤めた。文書は鎌倉時代から南北朝時代の文書が半数以上で、鎌倉時代の所領の譲状や相論関係、京都・博多における軍役の負担、蒙古軍との合戦や南北朝時代の合戦関係に関わる文書が多く残る。九州における在地領主の動向や実態を知る上で貴重な武家文書である。

(鎌倉時代～江戸時代)

②^{せんじゅじもんじょ}専修寺文書 (三百六通) 十一巻、一幅、七帖、二百八十四通

【所有者】 宗教法人専修寺 (三重県津市一身田町2819)

下野国高田を発祥地とする真宗高田派の本山である専修寺に伝来した寺院文書のまとまり。親鸞の廟堂に関する鎌倉時代の文書や室町幕府、朝廷、延暦寺との往復文書など、教団の確立過程を示す文書が多い。また、親鸞の俗姓系図である日野系図の最古写本も伝えられている。

(鎌倉時代～江戸時代)

③^{ひょうごきたせきいりふねのうちょう}兵庫北関入船納帳 一帖

【大きさ】 縦27.5cm 横21.8cm

【所有者】 京都府京都市 (京都府京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488)

東大寺領兵庫北関(神戸市)に入船した船舶に課された通行税の収納帳簿。文安2年(1445)のほぼ1年間にわたり、日々に入港した船一艘毎に船籍地、積荷の種類と数量、関税額と納入日、船頭名、問丸名が記載されている。瀬戸内海各地から京都方面に向けて輸送された塩・材木・米などの物資の流通状況が具体的に知られる。中世瀬戸内海水運の実態を分析する上で不可欠な記録で、室町時代の社会経済史研究の基本史料である。

(室町時代)

【大きさ】(永正三年記) 縦15.3cm 横23.0cm ほか

【所有者】財団法人陽明文庫(京都府京都市右京区宇多野上ノ谷町1-2)

関白・太政大臣近衛尚通(1473~1544)の自筆日記。尚通は近衛家14代当主。日記は永正3年(1506)から天文5年(1536)までで、その間の一部を欠いている。各冊とも1年分を1冊にしている。内容は政治的・文化的記事が豊富である。室町時代後期の最良の古記録で、公家社会のみならず当時の世相を知る上での第一級史料である。

(室町時代)

<考古資料の部>

(未指定文化財を重要文化財に 3件)

ほっかいどうかみのくにかつやまだてあとしゅつどひん
①北海道上之国勝山館跡出土品

一、磁器・陶器・土器・土製品	三百十三点
一、ガラス製品	十七点
一、木製品	百二十九点
一、漆器	十点
一、石製品	四十六点
一、金属製品	三百三十八点
一、骨角製品	六十五点
一、繊維製品	三点
附 炭化米	一括

【大きさ】銅鏡(No.7) 面径11.4cm ほか

【所有者】北海道檜山郡上ノ国町(北海道檜山郡上ノ国町字大留100)

16世紀の蠣崎氏の居館跡とされる遺跡からの出土品一括。出土品は、本州各地産陶磁器や朝鮮・中国からの輸入陶磁器、和鏡や装身具等の金属製品、漆器、さらに骨角製の漁労具など多彩な内容で構成される。北海道南部における当時の生活や、本州と北海道の交易・物資の流通、アイヌの人々との関係等を解明するうえで欠かせない資料である。

(室町時代~安土桃山時代)

②石川県雨の宮一号墳出土品

一、神獸鏡	一面
一、金属製品	百六十五点
一、碧玉製品	三十四点
附 漆製品残欠	一括
土器残欠	一括

【大きさ】神獸鏡 面径 17.0 cm ほか

【所有者】石川県鹿島郡中能登町（石川県鹿島郡中能登町末坂九部46）

全長64メートルの前方後方墳に設けられた粘土槨から出土した副葬品の一括。特異な図様の神獸鏡、多数の石製腕飾りや管玉、鉄剣や銅鏃などの武器類などから構成される。北陸地方を代表する古墳副葬品の一括で、当時の葬送儀礼の実態や、畿内との交流を考えるうえで欠かせない内容を持つ。

(古墳時代)

③長崎県双六古墳出土品

一、金製品	八点
一、銀製品	五十四点
一、金銅製品	五十八点
一、青銅製品	十四点
一、鉄製品	百二点
一、ガラス製品	九十三点
一、石製品	十点
一、琥珀玉	一点
一、陶器・土器	七十二点

【大きさ】金銅製磯金具 全長14.3 cm 幅8.5 cm

新羅土器 壺 残存高8.9 cm、胴径21.9 cm ほか

【所有者】長崎県壱岐市（長崎県壱岐市郷ノ浦町本村触562）

壱岐島に所在する、長崎県最大の前方後円墳からの出土品一括。既に盗掘を受けていたが、7世紀の古墳副葬品を知るうえで貴重である。副葬品はわが国と大陸・朝鮮半島との交渉を考えるうえで欠かすことのできない貴重な学術資料である。

(古墳時代)

<歴史資料の部>

(未指定文化財を重要文化財に 2件)

①^{つしまそうけかんけいしりょう}対馬宗家関係資料

- | | |
|-----------|--------|
| 一、朝鮮通信使記録 | 四百十七点 |
| 一、記録類 | 四百七十八点 |

【所有者】 学校法人慶應義塾（東京都港区三田2-15-45）

江戸時代に朝鮮国との外交・貿易を独占的に所管した対馬宗家の江戸藩邸で作成・保存された資料群である。朝鮮通信使関係の記録を中心とし、朝鮮往復書・毎日記等の記録類とともに伝来した。朝鮮通信使記録は通信使来聘の計画段階から帰国までの有様を極めて詳細に伝えるもので、天和期以降の朝鮮通信使の全体像を知る上で国内では最もよくまとまった資料群である。近世外交史上に価値が高い。

(江戸時代～明治時代)

②^{まつうらたけしろうかんけいしりょう}松浦武四郎関係資料

- | | |
|----------|--------|
| 一、著述稿本類 | 五百十一点 |
| 一、地図・絵図類 | 五十九点 |
| 一、書籍類 | 二百八十七点 |
| 一、文書・記録類 | 三百七十二点 |
| 一、書画・器物類 | 二百七十四点 |

【所有者】 三重県松阪市（三重県松阪市殿町1340-1）

松浦武四郎(1818～88)は江戸時代後期に6次にわたり、蝦夷地、北蝦夷地、千島を探索し、詳細な記録を残した。特に地誌やアイヌの人々の風俗の記録が充実しており、その成果を紀行文や地図として出版し世に紹介した。明治2年(1869)には開拓判官として北海道の道名、郡名を撰定した。本資料群は松浦武四郎の生涯の事績を伝えるもので、幕末から明治初年の北海道の歴史、地誌やアイヌ史研究等に重要である。

(江戸時代～明治時代)

3. 登録有形文化財（美術工芸品）

<工芸品の部>

（未指定文化財を登録有形文化財に 1件）

なみかわやすゆきしっぽうしりょう
①並河靖之七宝資料 千六百六十二点

【所有者】財団法人並河靖之有線七宝記念財団
（京都府京都市東山区三条通北裏白川筋東入堀池町388）

並河靖之（1845～1927）は京都で活躍した明治時代を代表する七宝作家で銀や金の細い帯を植線してガラス釉を埋めていく有線七宝を得意とした。明治6年（1873）に七宝制作を開始し、早くも明治8年（1875）の第4回京都博覧会にて有功賞を受賞、明治9年（1876）のフィラデルフィア万国博覧会にて銅賞を受賞し、以降国内外の展覧会にて受賞を重ねていった。

明治29年（1896）に東京で活躍した無線七宝を代表する濤川惣助（1847～1910）とともに帝室技芸員に任命された。

並河七宝は海外で高く評価されて大半が西欧を中心に輸出されたため、国内にまとまって所蔵される資料は極めて少ない。したがって並河靖之有線七宝記念財団の七宝作品は、日本における最もまとまった資料であり貴重なコレクションである。本資料には七宝141点の他に、制作に用いた下図類989点と道具類532点が含まれており、学術的にも極めて貴重な資料である。

（明治時代～大正時代）

<考古資料の部>

（未指定文化財を登録有形文化財に 1件）

えっちゅうちいきこうこしりょう はやかわしょうさくしゅうしゅうひん
①越中地域考古資料（早川莊作 蒐集品） 千六百九十九点

【所有者】富山県（富山県富山市新総曲輪1-7）

富山県の考古学の先駆者であり、富山県の考古学の基礎を作ったといわれる早川莊作氏の蒐集品。本資料は大正15年『越中石器時代民族遺跡遺物』、昭和11年『越中史前文化』、昭和37年『富山県の石器と土器』（いずれも早川莊作氏執筆）の基礎資料である。

（縄文時代～室町時代）

<歴史資料の部>

(未指定文化財を登録有形文化財に 1件)

①^{くどうりさぶろうきつえいしゃんがらすげんばん}工藤利三郎撮影写真ガラス原板 千二十五点

【所有者】奈良県奈良市（奈良県奈良市二条大路南1-1-1）

工藤利三郎(1848～1929)が撮影した古美術・古建築写真等のガラス原板(乾板)で1025点を数える。工藤は明治26年(1893)に奈良市猿沢池東に古美術専門の写真館工藤精華苑を開業し、晩年に写真集『日本精華』全11冊を刊行した。工藤の写真は、彫刻を主とし、対象をありのままに撮影したもので、古社寺保存法施行前後の文化財記録写真群として資料価値が高い。

(明治時代～大正時代)